

Q DX推進チャレンジャーによるシステムの内製化の状況について。

A **総合企画部長** DX推進チャレンジャーは、主に3つのツールを用いて内製化に取り組んでいます。一つ目は、人間が繰り返し行う作業をロボットが代わりに行うRPAを用いたもの20業務。二つ目に、プログラミングの知識が無くても、システムを開発できるローコード・ノーコードツールの一つである「キントーン」を用いたもの22業務。エクセルに搭載されたプログラミング言語で、ExcelVBAと同一連の操作を自動化できる技術を用いたもの48業務、合計90業務の内製化を行っています。

Q DX推進チャレンジャーがどの程度業務改善にチャレンジできているのか。

A **総合企画部長** 昨年度末に行なったDX推進チャレンジャーへのアンケートによると、約3分の2のDX推進チャレンジャーが何らかの取り組みを行ったと回答しております。ローコードツール等以外にも、電子申請や電子取納の実現、生成AIを使った議事録作成、エクセルの関数や集計機能を活用した効率化などそれぞれの職務に応じた業務改善に取り組んでいるとされています。

Q デジタル変革のための人材育成事業としての研修費等の3年間の総額は。

A **総合企画部長** デジタル変革のための人材育成として、幹部職員を含む全職員を対象とした意識変革を促すためのマインドセット研修と、DX推進チャレンジャーなどを対象とした、RPA、ローコード・ノーコードツールなど専門的な知識を習得するスキルセット研修を行っています。令和4年度は約2,300万円、令和5年度と令和6年度は約3,200万円、総額で約8,760万円となっています。

Q システムの内製化の成功事例について。

A **総合企画部長** プレジャーボート適合証の申請に係る業務ですと、約1400件の紙の申請を受け

付け、エクセル台帳にして管理していたものを、Web受付と電子取納に変更したことで、県内外の申請者の負担を軽減し、事務の正確性の向上を図ることができました。また、県内の中小企業支援施策ニーズを把握するため、700社を対象に実施したアンケート調査では、ローコードツール等を使用することにより、集計作業の効率化も図れています。こういった好事例については、庁内で掲示板等を通じて共有し、横展開をしていきたいと考えています。

Q AIの活用状況について。

A **総合企画部長** 令和5年度からAIの活用を開始して、感染症情報の通報作成業務など4件の業務にAIを導入したところです。さらに、令和5年7月からは、ChatGPTのよくなる生成AIの活用方針を策定、試行後12月から本格的に導入しました。職員が挨拶などの文章作成や、エクセル関数の作成などに利用しており、更に利用促進するため、今年度は、職員向けの研修も実施しています。

Q システム内製化におけるメリットやデメリットについてどのように捉えているのか。

A **総合企画部長** 業務の実態に合わせてシステムが開発できること、外部委託するよりも短期間低コストで開発や改修ができることなどがありませんが、何より、職員のシステムに関する知識の蓄積や、業務改善のきっかけになることが大きいと考えます。現時点でのデメリットは、システム自体の品質が職員の能力や経験等に左右されることと、また、担当者の交代によるシステムの維持管理に課題があると考えています。

Q システムの内製化におけるガイドラインの作成について。

A **総合企画部長** システムを内製化する際に一定の基準を示すガイドラインを作成することは、職員が漏れなく作業を進めるために有効です。そこで、システム開発の際に事業者が実施するテストやドキュメントの作成システム構築などのスケジュールや注意点など、内製化する際に気を付けるべき事項をガイドラインとして策定していきたいと考えています。

また、全職員向けのマインドセット研修や、DX推進チャレンジャーの養成を進めることで、県庁全体の意識やスキルの向上を図り、県庁のDXを推進していきます。

滋賀県警察防犯アプリ「ほけっとポリス」について

3月1日から滋賀県警初となる公式防犯アプリ「ほけっとポリス」の運用が開始されました。「ほけっとポリス」はスマートフォン向けの防犯アプリで、同様の防犯アプリとしては警視庁の「アジポリス2016年〜」が有名です。行政機関が提供するスマートフォンアプリとしては76万7千件(2024年5月末現在)、異例のダウンロード数を誇っています。

「アジポリス」がヒットした背景には、2019年に女性アイドルグループのメンバーが男性に襲われた事件をきっかけに「お勧めしたい防犯アプリ」としてマスコミが防犯の手段として紹介したことや、2022年に「アジポリス」の痴漢撃退機能を使用して助かった女性の話がニュースで取り上げられたことがあったと思われる。こうした「アジポリス」のヒットを受け、全国の警察でも同様の防犯アプリの導入が進められており、本県においても今年の3月から新たに運用を開始されたところです。

そこで滋賀県警の公式防犯アプリ「ほけっとポリス」について次の質問を行いました。

Q 「ほけっとポリス」はどのようなものか。

A **警察本部長** 「ほけっとポリス」は、主にスマートフォンで利用する防犯アプリです。特殊詐欺の予兆電話や不審者の注意情報などをタイムリーに発信しています。また、マップ上に犯罪や不審者の情報が分かります。表示されるほか、各種の防犯機能を備えるなど、安全のための機能が充実しています。

「ほけっとポリス」は、その名のとおり滋賀県警察からの安全安心情報を常に身近に持ち歩いてほしいとの意図があり、将来的には幅広い分野での活用を見据えています。まずは県民生活の基盤となる「安全安心」に特化した防犯アプリとして、運用をしています。

Q 「ほけっとポリス」のダウンロード数の状況について。

A **警察本部長** 本年度中の目標ダウンロード数を、県内人口の約1%と設定していましたが、7月1日朝の時点で1万4,130件となり、目標を達成しました。利用者は日々増加しているところです。警視庁の「アジポリス」のダウンロード数が人口の約5%なので、滋賀県でも県民の5%である約7万7千件のダウンロードを当面の目標とし、さらなる利用普及に努めます。

Q 「ほけっとポリス」の非常時における活用方法について。

A **警察本部長** 「ほけっとポリス」には、声が出せないような非常時にも使いやすい、防犯装置としての機能も備えています。具体的には、音や光で警告を発する防犯ブザーや、痴漢の被害に遭ったときに音声や画面で犯人に警告を発したり、周りの人に助けを求めたりすることができる痴漢対策などの機能です。いずれの機能も、ホーム画面上から非常時にワンタップで素早く使用ができるよう工夫をしており、また、使用した事実が事前に登録した家族等に通知、現在位置情報も自動で送信される仕組みになっています。加えて、タップすることで警察への通報も可能です。

Q 都市部とは違った滋賀ならではの活用方法もあると思うが、「ほけっとポリス」のpatrol機能について。

A **警察本部長** 防犯patrol機能や交通安全の見守り活動を行う際に、個人やチームで、活動の時間や距離などを記録することができ、機能です。利用者が登録した各市町やチーム別にランキング表示され、その活動状況を確認することができます。また、活動に応じたポイントが付与され、アプリ内で階級が巡査から最高で警察本部長を超える「警視監」まで昇任したり、滋賀県警察のマスケットキャラクター画像が当たる抽選があったり、楽しみながら活動できる機能となっています。

Q 防犯patrolや交通安全patrolなど、ランティアなどは、どれくらいおられるのか。

A **警察本部長** 通学路などで子どもを見守る活動を行う「子ども安全リーダー」をはじめ、少年補導員や交通安全ボランティアである「おうち通学路交通安全バイザー」など、延べ8,000人のボランティアの方々各地域で活動されています。

Q ボランティア活動等へのモチベーションアップの効果もあると思うが、防犯patrolや交通安全patrolへのアプリの活用について。

A **警察本部長** patrol機能はボランティア活動を支援し、平素の活動のモチベーションの向上につながる機能です。このため、引き続き各団体のネットワークを通じて啓発チラシや動画を活用して利用を促進するほか、研修会や合同patrol等のあらゆる機会を通じて詳細な機能の説明を行うなどして、一層の周知に努めます。

Q 現在地送信機能の活用状況について。

A **警察本部長** 利用者間で事前に登録した家族などに、「ついでにいまここ」などの簡単な言葉添えて自分の現在地を通知することができ、見守り機能です。親子での利用や、家族と離れて暮らす単身者、高齢者の日常の定時連絡や家族との安全確認などにも活用されており、本アプリの趣旨に沿った幅広い年代に活用されています。

Q 今後の「ほけっとポリス」の周知方法について。

A **警察本部長** 安全教室等の対応型の周知活動を引き続き実施するほか、今後は動画を活用した啓発や、ウェブ広告やSNS上での広告によるインターネット利用者への周知を推進する予定です。また、子どもや女性、高齢者の利用促進のため、関係部局と連携して、アプリの趣旨に賛同してクーポン掲載に協力いただいている県内企業等とも連携して、更なる周知に努め、利用者数の向上を図るとともに、県民の安全安心のための総合的な情報発信ツールとなるよう運用を図っていきます。

田中松太郎の日々の活動はSNS等で配信しています！

公式ホームページ
Facebook
Instagram

検索 田中松太郎
http://matsutaro.jp/

7/18 行財政・DX推進特別委員会

アインズ株式会社を訪問し、「びわクラ」の運営等を通じて、クラウドファンディングの運営についての企画運営の実績があり、本県における財政健全化に向けたクラウドファンディングの活用についてお話を伺いました。

7/26 厚生・産業・企業常任委員会

日清食品株式会社関西工場を訪問し、スマートファクトリーによる生産革新について調査を行いました。少子高齢化が加速する本県において、製造業等のDX化を促める中小事業者の支援につなげる参考とするためお話を伺いました。

パナソニックアソシエイツ滋賀株式会社を訪問し、障害者雇用の促進に係る現場の状況の調査を行いました。重度障害者多数雇用を目的とした会社で、従業員の皆様との県民参画委員会を開催し、意見交換を行いました。

滋賀県立総合病院の新放射線治療棟の調査を行いました。都道府県がん診療連携拠点病院でもあり、昨年度、最先端設備を導入した放射線治療棟が建設されたことから、今秋からの本格稼働に向けた状況について調査を行いました。